

## 論文審査の要旨及び担当者

報告番号	甲 ㉔ 第	号	氏名	榎野 香奈子
<p>論文審査担当者 主査 システム医学 洪 実</p> <p>衛生学公衆衛生学 武林 亨 内科学 福 永 興 彦</p> <p>衛生学公衆衛生学 岡 村 智 教</p> <p>学力確認担当者：柚崎 通介 審査委員長：武林 亨</p> <p style="text-align: right;">試問日：2021年11月16日</p>				
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>論文題名：Unbiased, comprehensive analysis of Japanese health checkup data reveals a protective effect of light to moderate alcohol consumption on lung function (日本人の健診データの網羅的分析により明らかになった、軽度の飲酒が肺に及ぼす保護的な影響)</p> <p>慶應義塾大学病院予防医療センターでは年間7000名の健康診断を行い、多岐に亘る生活習慣の問診結果や検査データを有している。その蓄積データを、まず横断研究として網羅的PCIT (partial correlation and information theory) を用いて分析する事で新たな研究仮説を見出し、これを更に縦断研究で検証した。その結果、一定程度以下の飲酒が肺機能に対して保護的な影響を及ぼすことが示唆された。</p> <p>審査ではまず、非飲酒者グループの過去の飲酒歴の扱いについて質問された。質問項目に過去の飲酒に関する項目がなく、非飲酒者の中に過去の飲酒者が含まれている可能性が説明され、今後質問項目に入れることを検討する旨を回答した。これに対して、非飲酒者の中に過去の飲酒で健康を害したものが含まれるために、見かけ上、健康状態が飲酒者より悪く観察されることが多くの疫学研究で報告されており、本研究の主要な限界として認識すべきとのアドバイスがあった。また、PCITで見つかった関連について、縦断的な検討においてポアソン回帰分析やコックス回帰分析を用いた解析を行ったかどうか質問があり、本研究では実施しなかったが、今後は実施すべきと考えていると回答した。論文タイトルで、軽度の飲酒としているが、中等度の飲酒量でも肺への保護的作用が観察されている点が指摘され、大酒家 (350g/week) と比して飲酒量の少ない群との意図であったと回答した。次に、年齢や体格の要因を考慮した予測肺活量 (%FVC) との関連について質問された。%FVCとは関連が低く、また、身長、年齢との相関係数との関連性も低いことを確認したと回答した。年齢が若い人のほうが運動量も多く骨格筋も増強されFVCが増加している可能性があることから、運動習慣との関連性について質問され、PCITの手法では運動習慣との関連性は認めなかったと説明した。喫煙に関してはBrinkman係数での検討がされている論文が多い中、縦断解析で本数を用いた理由を質問された。本数、年数を検討した横断研究で、肺機能との関連性を認めなかったためと回答されたが、その場合であっても、年齢による調整や層化が必要であると指摘された。縦断解析における飲酒量変化と肺機能低下の関連について、年齢、体重などでの統計学的調整はしなかったのかと問われ、同一人物の間での差であるため補正の必要性は低いと考えたと説明した。また、飲酒による肺への保護の程度が2013年と2018年では同じと考えたと回答した。被験者の年齢や体格あるいは元の肺活量によって、影響の程度が異なる可能性があることから、これらの調整を行うべきとのアドバイスがあった。</p> <p>以上のように、本研究は今後検討されるべき課題を残しているものの、PCIT手法が今後の大規模データを用いた解析において有用であること、飲酒が肺に保護的な作用をもたらす可能性があることを提示した点において有意義な研究であると評価された。</p>				